

26年7月分 合板工場の荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成26年 6月20日～ 26年7月10日

2. 調査実施方法

全国の合板工場-1に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
7月分の回答企業数は7社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)=[(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)]÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) 国産原木入荷動向 Weight. D. I.

品目		26/7月	8月	9月
入荷動向	スギ	16.7	0.0	20.0
	ヒノキ	△ 25.0	△ 25.0	△ 25.0
	カラマツ	△ 50.0	△ 25.0	△ 8.3
	トドマツ	△ 33.3	△ 33.3	△ 33.3
消費動向	スギ	△ 50.0	△ 16.7	16.7
	ヒノキ	0.0	△ 25.0	25.0
	カラマツ	△ 66.7	△ 16.7	△ 16.7
	トドマツ	△ 66.7	△ 33.3	△ 33.3
在庫動向	スギ	33.3	16.7	0.0
	ヒノキ	△ 25.0	△ 25.0	△ 25.0
	カラマツ	0.0	△ 16.7	△ 33.3
	トドマツ	0.0	0.0	△ 33.3

スギ原木の入荷は、7月の増加が、8月の横ばいを経て9月には増加に、ヒノキ、カラマツ及びトドマツは共に減少傾向で推移。

スギ原木の消費は7,8月の減少が9月には増加に、ヒノキは7月の横ばいが8月の減少を経て9月には増加に、カラマツ及びトドマツは減少傾向で推移。

スギ原木の在庫は7,8月の増加が9月には横ばいに、ヒノキは減少傾向で推移、カラマツは7月の増加が8月の横ばいを経て9月には減少に、トドマツは7,8月の横ばいが9月には減少に。

(2) 合板用原木購入価格動向 Weight. D. I.

品目	26/7月	8月	9月
スギ	0.0	0.0	0.0
ヒノキ	0.0	0.0	0.0
カラマツ	16.7	△ 16.7	△ 16.7
米マツ	0.0	△ 25.0	0.0
北洋カラマツ	0.0	△ 25.0	0.0
その他	-	-	-

スギ及びヒノキ原木の購入価格は共に横ばいで推移、カラマツは7月の強保合が8,9月は弱保合に、米マツ及び北洋カラマツは共に7月の保合が8月の弱保合を経て9月には保合に。

モニターからのコメント

(原木荷動き)

・カラマツ及びトドマツは入荷良好。消費は減少見込み。在庫は変わらず。
・スギ及びカラマツは増加、7月半に置き場の問題で調整図る、今月は生産量15%減のため消費は全体に減少、在庫は増加傾向。・スギは、梅雨に入って入荷も多少少なくなっているが、まだ消費量以上の入荷は続いている。ヒノキは在庫が極端に多いため6月より入荷制限を行っている。消費は生産調整を行うため15%ほど減少、8月もお盆休みをからめて工場内機械メンテナンスを行うため更に消費量は減る。7月は生産調整のため在庫は増えてくる、ヒノキは入荷制限を行うため多少減少。・スギ及びカラマツは7月からの減産で入荷減少、合板生産に合わせた消費、在庫はほぼ横ばい。・スギ原木入荷は順調、生産調整は外材で調整し、国産材は変わらず。・増税後の反動減で生産調整によりカラマツ原木の入荷減。消費は特に変わらず、在庫は調整中。

(原木価格)

・カラマツ原木は上げ止まり。・スギ、ヒノキ及びカラマツは多少の変動あるも、横ばい。・市場価格は下落しているが、合板用は6月と同値、今後の動きを見ながら考えたい。輸入材は中国向けが動きが悪いため日本向けも多少弱含んでいる。・国産材はカラマツが多少上昇、北洋材は現地価格が弱含み、米材は、ほぼ横ばい。・出荷状況良好も反動源で価格は、地域にもよるが、総じて弱保合。

26年7月分 合板工場の荷動き・価格先行き動向調査 2

4. 調査結果の概要

(1) 生産動向 Weight. D. I.

品目		26/7月	8月	9月
生産動向	構造用(9mm)	△ 60.0	△ 40.0	△ 25.0
	〃 (12mm)	△ 66.7	△ 33.3	△ 20.0
	〃 (15mm)	△ 66.7	△ 33.3	△ 20.0
	〃 (24mm)	△ 83.3	△ 33.3	△ 20.0
	〃 (28mm)	△ 83.3	△ 33.3	△ 60.0
出荷動向	構造用(9mm)	△ 33.3	△ 20.0	△ 20.0
	〃 (12mm)	△ 57.1	△ 16.7	△ 16.7
	〃 (15mm)	△ 33.3	0.0	0.0
	〃 (24mm)	△ 57.1	△ 33.3	△ 16.7
	〃 (28mm)	△ 50.0	△ 20.0	0.0
在庫動向	構造用(9mm)	16.7	△ 33.3	△ 20.0
	〃 (12mm)	28.6	△ 28.6	△ 16.7
	〃 (15mm)	16.7	△ 33.3	△ 20.0
	〃 (24mm)	42.9	△ 28.6	△ 33.3
	〃 (28mm)	33.3	△ 33.3	△ 40.0

いずれの品目の生産も、減少傾向で推移。

9mm、12mm及び24mmの出荷は減少傾向で推移、15mm及び28mmは7月の減少が9月に向けて保ち合いに。

在庫は、全ての品目において、7月の増加が8,9月には減少に。

(2) 構造用合板出荷価格動向 Weight. D. I.

品目	26/7月	8月	9月
構造用(9mm)	△ 57.1	0.0	16.7
〃 (12mm)	△ 57.1	16.7	16.7
〃 (15mm)	△ 57.1	16.7	16.7
〃 (24mm)	△ 57.1	16.7	16.7
〃 (28mm)	△ 57.1	16.7	16.7

9mmの出荷価格は7月の弱含みが8月の横ばいを経て9月には強保合に、12mm、15mm、24mm及び28mmは7月の弱含みが8,9月には強保合に。

モニターからのコメント

(合板荷動き)

・7月は当初計画生産量の15%減産実施、消費増税の反動で需給緩和続く、4~6月は大幅な出荷減。厚物関連が大幅な在庫増。・製品在庫はそれ程多くないが、全国的な荷動きが悪いのでグループとして生産調整を行う、出荷は梅雨の時期だけに動きは低調、梅雨明後に期待。減産効果で在庫調整を行う、梅雨、台風の影響次第では荷動き止まり在庫が増えるかも。・生産は若干減、出荷は6月より多くなる見込み、在庫は適正。

・7月の減産により品目によって横ばいしないし減少、価格弱含みで客先の当用買により出荷減少、現場の遅れで出荷にも影響。9mm以外は全て在庫増。・7,8月は減産、出荷は徐々に回復。・9mm及び12mmは住宅着工の鈍さもあって動き悪い。生産調整を考慮中。多摩産材及び静岡県産材などの地域材(12mm及び15mmの3×6)の問い合わせが増えている。

(合板価格)

・一部メーカーによる小幅安で対応を強いられた感あるも、建値相場を下支えしている。現価格維持に期待。

- ・一部メーカーから安値の話が出ている、状況次第では対応も必要。
- ・若干弱含み。
- ・荷動き低迷により下落。